

平成23年度に建設工事で発生した事故事例（地下埋設物損傷事故）

事故概要:

施工箇所の上部既設ブロックが崩壊し、付近で作業中の作業員2名が崩落に気付き、飛び降りた際に1名は遠くに飛んだ際に負傷し、1名は着地後後から落下してきた既設ブロックに足を挟まれ負傷した。

事故原因:

- ・既設ブロック下の床堀が過堀状態だった
- ・2m以上の高所作業にも関わらず転落防止措置を行わなかった

改善対策:

- ・過堀防止と掘削面について地山の挙動を監視する
- ・安全带等転落防止措置を行う



分類: ブロック積工、BH掘削

被害状況: 3か月の加療(右脛骨骨幹部開放骨折等)、1週間の加療(左足関節打撲)

平成28年度に建設工事で発生した事故事例（埋設物損傷事故）

【事故概要】

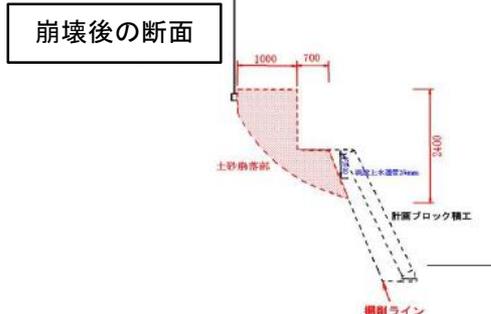
平成28年9月の豪雨によって被災した玉石積護岸をブロック積にて復旧するため、被災直後に応急仮工事で設置した大型土のうを撤去し、斜面上部から1m単位で1:0.4の勾配で整形程度の掘削を開始した。2m付近まで掘削を行ったとき、斜面上部の巨石、ブロック塀を含む土砂が一気に崩壊し、地山内の水道管も破損した。

【事故原因】

・背面地山に宅地造成による緩い層が存在しており、この緩い層の上に巨石とブロック塀があったため、この荷重に耐えられず崩壊が発生した。

【改善対策】

・実施設計時における現場に即した施工計画の立案
・着手前の設計照査による施工の妥当性及び安全性のチェック
・公衆災害、土砂崩壊が懸念される場合は、発注者と受注者の間で十分に協議を行い、必要に応じて専門家への相談等を検討



【分類】ブロック積工、BH掘削

【被害状況】上水道 4軒 断水2時間半、背面人家の巨石・ブロック塀崩落